

NPO法施行10周年・みえパートナーシップ宣言10周年事業
第1回実行委員会概要

日時：平成20年9月11日（木）19：00～21：00

場所：みえ県民交流センター ミーティングルーム

出席者：金憲裕、杉田宏、前田昌身、千賀さわ子、筒井真（代理）、岡本光晃、
中盛汀、前川浩也、吉島隆子、出丸朝代、中村昌弘、由利嘉朗、亀井
敬子、高垣和郎、福西秀文

事務局：古川明郎、亀山裕美子、明石須美子、辻千賀子、富山達也

1 はじめに 男女共同参画・NPO室 亀井室長

本日は、お集まりいただきありがとうございます。平成20年でNPO法が施行されて10年になります。また、三重県では、延べ1500人の市民の参画のもとで議論を積み重ね、公開の場で市民とともに宣言した「みえパートナーシップ宣言」から10年になります。

これまでの10年、これからの10年を考えてはどうかと、市民の方からの意見もあり、今回、10周年事業を企画しました。みなさまには、この事業の実行委員としてご参加いただき、ありがとうございます。みなさんのご意見、アイデアをいただいて意義のあるものになりたいと思います。

2 自己紹介

座席順に、参加の動機や、ご自分の活動、この事業に期待することなどを交えて自己紹介を行いました。



3 実行委員会について

=事務局説明=

事業趣旨・ねらい

一つは、NPO法施行10年、みえパートナーシップ宣言10周年の機会に、これまでの10年をふりかえり、今後の10年を考えるきっかけとすること、二つ目として、NPO関係者が交流する場をつくることを目的とした実行委員会である。そのベースとしてNPOが元気になるということを主眼において一緒につくっていきたいと考えている。

実行委員会規約（案）

- 条文読み上げ -

委員長・副委員長選出

実行委員長の役割は、規約第4条第2項のとおりである。1日の事業実施を想定しているため、事業の作りこみと実施を実行委員長名で実施していきたい。副委員長は委員長の代理を行う。事業当日は、役割分担が別途必要だが、現時点では、実行委員会の代表としての委員長と副委員長を決めて進めていきたい。

= 委員長・副委員長選出 =

事務局一任という意見があり、事務局で委員長に推薦したいと考えている方は、本日ご欠席のため、ご本人に確認する。

【確認したこと】

・事務局から候補の方に確認して次回の実行委員会で報告、選出する。

= 「目的」について意見交換 =

- ・ 規約第2条の目的の主語がない。“これまでの10年をふりかえり”というのは、何の10年を誰が振り返るということなのか。“今後の10年を考える”とは、何についての今後の10年を考えるのか。さらに、“関係者が交流する場”とは、何のための交流かが、はっきりしていない。
- ・ これまでの10年というのは、三重県の実施してきたNPO施策によって、どうなったかということではないか。県が音頭を取って進めてきたことは事実なので、それがどういう変化、変革をもたらしたか、それが行政にとって、NPOにとってどうであったかをふりかえるということではないか。また、これからの10年とは、私たちがこの社会においてNPOとして活動していくには、何をどうしていけばよいのかを考えるということではないか。
- ・ 三重県の協働が、パートナーシップ宣言を受けてどう変わったのか、今後どうしていきたいのかという議論の切り口もある。
- ・ NPOセクターがふりかえるのか、一般の人たちにもふりかえてもらうのかで、何をやるかが変わってくる。みなさんがどういう思いでお集まりかということ、話してみてもどうか。
- ・ この会を通して何を実現していこうとするのか。お考えのある方は？
- ・ NPOが知られて10年経って、何もなしに過ぎてしまったではもったいない。県の体制がNPO室から男女共同参画・NPO室となり、「みえ県民交流センター」は、来年から指定管理者制度が導入されるなど、変化してきている。NPOもコミュニティビジネス(CB)との関わりが出てくる等、10年前とは世の中の流れや見方が変わってきている。それを一般の人々にも訴えるきっかけにすると考えていた。主語は、ぼくら自身であ

り、一般の方ではないか。全体でふりかえり考えるのだから、規約の表現のままでよいと思っていた。

- ・ 今までの意見：（１）NPO施策とそれを受けた市民が、10年をふりかえり、NPOが今後の10年を考えるきっかけとしたい。また、NPO関係者が交流する機会とする。（２）一般の人を、巻き込み、周知や理解を深める機会とする必要はないのか。他の方はどうか。
- ・ 地域密着型スポーツクラブの活動をやっている。中学校と町の体育館の使用料の減免をもらっているが、運営資金は指導員の持ち出しでやっているため限界にきている。今後の10年をどうすればよいか。ヒントがもらえる場になればと思って来た。
- ・ NPOを立ち上げて4年目になる。もっとNPOのことを知りたい。過去の10年をどう活動してきたのか、これからどうして活動していったらいいのか、勉強の場と思って参加した。イベントは、一般市民の方にもNPOを身近なものとして知ってもらえるものと思ってきた。
- ・ 意見を出して、事務局で修正案を出してもらってはどうか。

【主な意見】

- ・ 県のNPO施策を受けて、三重県のNPOはどう活動してきたのかをふりかえり、そのNPOが今後の10年を考えるきっかけとする。
- ・ パートナーシップ宣言を受けて、NPO施策のひとつである協働のあり方がどう変わってきたかを議論する。
- ・ 一般への周知や理解を求めていくという目的もあるのではないかな。
- ・ 今後の10年をどう活動していくのか、ヒントが得られる場にする。
- ・ 交流の場は経験に関係なく互いに学びあえる場とすることができる。

【確認したこと】

- ・ 意見を受けて、次回、事務局で訂正したものを提案する。

= 事業終了後についての意見交換 =

- ・ この実行委員会は、1回だけのイベントのために集まっているのか。
- ・ チラシでは、県のNPO施策の成果と課題を整理すると書いた。県としては、これまでやってきたことを整理したいという思いがある。イベントをきっかけに、これからどう取り組んでいくのかを、今度の課題として取り組んでいきたい。イベントが終わってから、今後のことを考える場をあらためて作っていきたい。
- ・ 規約第6条のとおり、事業実施後に実行委員会は解散するのか。実行委員会の予算は、どれくらいなのか。

- ・ 実行委員会は、イベント終了後、一旦解散する。事業終了後のふりかえりで一定の課題が出てくると想定している。それを受けて、あらたな場が必要かどうかも含めて考えたい。予算は、市民活動センターの連携交流のための予算の範囲内でと考えている。

【確認したこと】

実行委員会は、イベント終了後、解散する。その後の対応は、事業終了後の課題を受けてあらためて考える。

= 事務局説明 =

議長選出

実行委員長が進行することが多いが、進行をしていると意見が出しにくいので、その都度、議長を選出すれば、発言の機会が確保できると考えた。議長の選出が難しいときには、事務局が進行する。

本日は、委員長が選出されていないため、議長を選出せず、引き続き事務局で進行を行う。

企画案

- ・ 12月13日にイベントを行う。
- ・ 場所は、みえ県民交流センターのフロア全体を予約している（交流スペース、ミーティングルーム、イベント情報コーナー）。
- ・ 内容は、講演、ワークショップ、交流会などを例示した。
- ・ 全国的な視点からの状況を聞かせてもらえる方ということで、日本NPOセンターの山岡義典さんの予定を空けてもらっている。山岡さんには、趣旨だけお伝えしてあるので、内容は実行委員会で決めていきたい。
- ・ 日時、場所、主催は決まっているという状況である。

スケジュール（案）

- ・ 実施日から逆算すると、9月に企画案確定、10月にチラシ確定、11月に広報という、スケジュールイメージとなる。

= 企画案についての意見交換 =

- ・ 三重県のNPO施策についての参考資料を配布してもらっているが、みえパートナーシップ宣言が発せられて全国にインパクトを与えた。そういう10年をふりかえるのであれば、三重県のことを語れる人がいいのではないか。
- ・ 山岡さんには、三重県のことをよく承知してもらっており不安はない。
- ・ パートナーシップ宣言のあと、協働に取り組んでいく中で、NPOが永続的に活動していく担保ができたのかどうか。NPOへの委託の積算で、人

件費をどうみているかというのも大事なテーマである。それらが担保されずに、協働やパートナーと言うのは変な話である。また、企画段階から共有することなしに、ふりかえりだけをするようなこともあり、協働のルールを、パートナーシップ宣言の思想で捉えていくということが必要である。本質のところでは議論するためには、NPOも責任をもって意識を高めていくことが必要である。例えば、指定管理者制度などで、NPOも企業との競争を乗り越えなくてはならない時代となっており、意識を変えていく必要がある。

- ・ 知事がある講演で市民活動への期待を訴えておられたが、行政として市民活動団体の実態をどこまで知っているのか。お互いに本音で話し合う場が必要と思う。
- ・ 近年、三重県が、元気がないと言われる。大きく全国に発信するものも少なかった。10年をふりかえるより、これからの10年がどういう方向でいくのかということが大きなテーマと思う。公益法人改革が行われ、NPO法人を選ぶ時代ではなくなった。株式会社でも事業展開ができるといった流れの中で、これからどういう方向性でいくのかを考えないといけない。イギリスでは、地域の間支援的なものを国がバックアップして進めているが、日本を見ていると、地域社会を作るといよりは、個別課題を解決するという方向に進んでいる。今後、どういう方向に向いていくのか、どういうふうにしなないと地域社会がよくなっていかないのか。委託事業だけでは活動を継続していけないので、これからは、企業との連携やCSRを無視できなくなる。これまでの10年をふりかえて、10年来NPO活動を続けられてきた方々の考えを知るとともに、今後の10年をNPO、市民、行政、企業が、どう考えるのか。市民がNPOを支えないともたない時代である。市民社会をどう目指していくのかということを議論できればいい。
- ・ これからの10年を考えるとといったときに、二通りの切り口がある。これまでの10年間で自分がどう変わってきたかというふりかえりと、現状の他との比較である。山岡さんには、他と比べて三重県を見てもらうことができるのではないかと。また、三重県をよく知っている人からも話してもらうのがよいと思う。
これからの企業は社会的責任を問われることになるので、企業にも関心を持ってもらえるものになるとよい。過去、現状比較、今後で、仮説を立ててはどうか。10年前には、NPOと行政の協働でよかったが、今は、企業との協働もあると思う。

【主な意見】

- ・ 三重県の10年を知る機会にしてはどうか。
- ・ パートナーシップ宣言の思想を知る機会とする。
- ・ 協働のコストについて考える。
- ・ お互いに本音で話し合える場づくりが必要である。
- ・ 市民社会を目指す過程の中で、今までの10年を知ることと、これからの10年を考えることが必要ではないか。
- ・ これまでのふりかえりと、これからを考えるということは分けて考えた方がよいのではないか。
- ・ 今後を考えるためには、時系列によるふりかえりと、他との現状比較が必要である。

= スケジュール =

今後の実行委員会の日程。

- 第2回 9月24日(水) 19:00~21:00 交流スペース
- 第3回 10月 9日(木) 19:00~21:00 ミーティングルーム
- 第4回 10月20日(月) 19:00~21:00 交流スペース
- 第5回 11月13日(木) 19:00~21:00 ミーティングルーム
- 第6回 11月26日(水) 19:00~21:00 ミーティングルーム
- 第7回 12月 2日(火) 19:00~21:00 ミーティングルーム
- 当日 12月13日(土)

【第2回実行委員会への準備】

- ・ 次回は、具体的な企画案について話し合う。各自、具体案を考えてくる。